

**島根県労福協・中国労金島根県営業本部・
こくみん共済coop 島根推進本部主催**

どうなる公的年金！始めよう退職後生活の備え！

2019 ライフプランセミナー開催



菅野 美和子 講師

「どうなる公的年金！始めよう退職後生活の備え」をテーマに、県内で働く勤労者のための退職前セミナーを県内3会場で開催し、昨年を上回る参加者がありました。講師の菅野美和子社会保険労務士から公的年金の制度・仕組み、60歳以降の高年齢者雇用継続給付金、在職老齢年金、退職後の健康保険等について解りやすく説明を受けました。地区労福協の皆さんには、市広報への広告掲載やセミナー参加を積極的に働きかけていただき、当日の会場準備や閉講挨拶など積極的にご協力をいただきました。参加者アンケートでは、非常にわかりやすい、ある程度理解を合わせて91.7%、また、満足、概ね満足を合わせて95.7%に上り満足度の高いセミナーとなりました。「丁寧な説明でとても分かりやすく、他の同種のセミナーよりも理解ができた」、「65歳までに検討すべきことが理解でき、準備にかかろうと思った」、「今後とも継続して実施してもらいたい」等のコメントが寄せられました。

今回は、退職後2000万円不足の問題が報道される中、参加者の関心も高く熱心に受講されていました。ライフプランセミナーについては、来年度も継続して開催する予定です。

地区	開催日	会場	参加者(人)
松江	9月1日	くにびきメッセ501	136
出雲	9月8日	ニューウェルシティ出雲 牡丹	181
浜田	10月6日	浜田市総合福祉センター	65
合計			382

**2019年度西部労福協
第38回研究集会を松江市で開催**

**テーマ：「支え合い・助け合いで持続可能な地域共生社会を！」
～格差・貧困・排除のない多様性が尊重される社会をめざして～**



丸山島根県知事

西部労福協では、11月7日(木)・8日(金)の両日、島根県松江市の労働会館とホテル白鳥において、丸山達也島根県知事他を来賓に迎え、中四国各県から90名参加のもと、第38回研究集会を開催し、島根県からは、連合島根、福祉事業団体及び各

地区労福協から合計23名が参加しました。成相会長は開会挨拶で相次ぐ自然災害に触れ、「共済の取り組み等を通じて、支え合い・助け合いを実践することを通じて、SDGsが標榜する“誰ひとり取り残さない”地域共生社会をつくるために学び合う機会としたい」と述べました。研究集会では、地元講師を中心とした4名の講師陣から以下の講演を受けました。

	演題	講師
講演1	「SDGs時代における社会のありかた～基礎講座」 ～全ての業務・生活は繋がっている～	島根大学大学院教育学研究科 松本一郎教授
講演2	～独自の視点で本質を見極めホッペで語る～ 社会福祉事業を自ら起業・経営してきて見えてきたコト…	社会福祉法人ねむの木福祉会 浅津寿広理事長
講演3	「協同組合・共済の父、労働組合の母 賀川豊彦の 思想と実践」	賀川記念館 西義人参事
講演4	“福祉教育”の視点で社会を観る～持続可能な地域 共生社会の実現を目指して～	島根県福祉教育推進協議会 田原秀樹副委員長

講演では、それぞれ豊かな経験や確かな知見に基づいて講演をいただきました。参加者は、これらの学びを通じて、テーマに掲げた「持続可能な地域共生社会」づくりに向けた取り組みを進めることの必要性和、そのうえでのヒントを得ることにつながったものと思います。西部の各県労福協は、「福祉はひとつ」の中央労福協創業の精神に則って、共助、とりわけ労金運動、労済運動、生協運動、ライフサポート事業やフードバンク活動等を通じて、勤労者福祉向上に取り組んでいくことを確認して閉会しました。

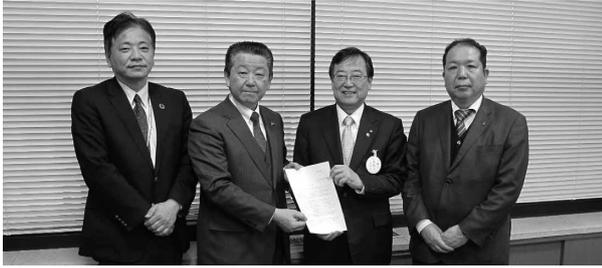
**福祉事業団体利用拡大キャンペーンの
「各地区労福協の取り組み目標に対する中間実績」報告**

各地区労福協の11月末の取り組み実績を下記のとおり報告します。地区により取り組みの濃淡が顕著になっています。3か月間のキャンペーン実績に基づき、運動の成果と課題を明らかにし、各地区の年度末目標達成に向けてどのように取り組むか、地区労福協・労金部会ならびに労済部会と労金営業店・こくみん共済coop支所との間で、適宜幹事会を開くなどして現況把握と今後の取り組みについて意思統一をお願いします。

**福祉事業団体利用拡大キャンペーン
取り組み目標（2019年10月～12月）と11月末実績**

地区名 推進項目	松江	隠岐	安来	雲南	出雲	大田	江津	邑智	浜田	益田	合計
中国労金 他金融機関等 ローン借換え件数	45	5	15	6	40	12	3	3	8	4	141
#11月末実績	23	0	9	2	12	3	1	4	5	5	64
中国労金 個人型確定拠出年金 (iDeCo) 新規契約件数	110	32	35	13	104	50	25	10	16	30	425
#11月末実績	16	1	7	14	17	4	10	3	13	25	110
中国労金 会員への提案活動 件数目標	40	5	3	3	29	6	5	5	10	5	111
#11月末実績	14	4	1	8	13	5	3	6	10	6	70
こくみん共済coopマイカー共済 見積もり件数	160	10	80	40	90	20	20	10	40	30	500
#11月末実績	117	3	70	11	92	4	10	2	25	26	360
こくみん共済coop自営共済 (保険)アンケート回収件数	160	10	80	40	90	20	20	10	40	30	500
#11月末実績	78	16	50	14	91	2	47	0	5	10	766

島根県知事へ労働者福祉運動の「2020年度島根県政策制度要請書」提出！



12月23日、島根県労福協成相理事長、福間専務、松本事務局長、中国労金仲田本部長、こくみん共済coop原田本部長、烏田生協連理事の6名が島根県庁を訪問し、藤原副知事に「2020年度島根県政策制度要請書」を提出しました。

成相理事長は、冒頭、労働者福祉事業に対する島根県のご支援・ご協力への感謝を申しあげ、「中央労福協は、『福祉はひとつ』を創業の精神として今年結成70周年を迎え、島根県労福協は、この原点を大切に、相談・就労支援などの活動を行い、実績を積んできている。県内の勤労者の様々な不安や悩みを解決するため、また福祉の増進を図るための要請事項を取りまとめた。次年度予算編成や政策への反映をお願いしたい」と要請し、続いて、福間専務が7分野の要請趣旨について説明しました。

藤原副知事は、「県労福協が、暮らしサポートセンターの相談活動や、就職サポートセンターの中高齢者・女性就労支援事業等を通じて、県内勤労者の福祉増進に尽力されていることに敬意を表する。要請趣旨を、予算編成等に当たって考慮していきたい。来年早々に文書をもって回答する」と述べました。

(要請項目と回答内容はHPに1月中旬掲載予定)

要 請 項 目

1. 「労働者福祉運動の育成・強化」について
2. 中高年齢者及び女性の就労支援事業への支援について
3. SDGs（持続可能な開発目標）の達成と協同組合の促進・支援
4. 格差・貧困社会の是正、セーフティネットの強化
5. 消費者政策の充実強化
6. 中小企業勤労者の福祉格差の是正
7. 子育て・教育支援

中央 労 福 協

第64回定期総会を開催

労福協の理念、2030年ビジョン等を決定



中央労福協は結成70周年の節目にあたり、11月29日、東京・ホテル・ラングウッドにおいて第64回定期総会を開催し、2年間にわたり組織討議を行ってきた労福協の理念、2030年ビジョンや、それに基づく2020～2021年度の活動方針等を決定し、新たな10年の活動への一歩を踏み出しました。

総会には203名の代議員（島根県から成相理事長、福間専務が参加）をはじめ、来賓や傍聴を含め224名が参加しました。小林直哉副会長の開会の挨拶で始まり、議長団に谷川原聖子代議員（メディア労連）と成相善朗代議員（島根県労福協）を選出しました。

主催者を代表して挨拶した中央労福協の神津里季生会長は、「連帯・協同、助け合い・支え合いを社会に根

付かせていくため、みんなで作りあげてきた理念とビジョンを日々の実践の糧として、次の10年への一歩を踏み出そう」と呼びかけ、また、労働組合と協同組合との連携や労福協の役割に触れ、「みんなで“つながる運動”を広げ、新しい社会や時代を切り拓いていこう」と訴えました。議案討議を経て、2018～19年度活動報告、2019年度決算、2020～21年度活動方針案、2020年度予算案、規約改正案など全ての議案が承認されました。

役員改選では、神津会長（再任）、南部美智代事務局長（新任）らの新役員を選出し、退任した花井圭子前事務局長は参与に就任しました。

《労福協の理念》

すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります。

《2030年ビジョン》

めざす社会像

貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらせる持続可能な社会

ビジョン

1. 多様なセーフティネットで、働くことや暮らしの安心を支えます。
2. 労働組合と協同組合が連携・協同し、共助の輪を広げ、すべての人の暮らしを生涯にわたってサポートします。
3. 地域の様々なネットワークで、支え合い、助け合う地域共生社会をつくります。
4. 労働者福祉運動を継承・持続するために、人材を育成し、財政基盤を確立します。

フードバンク活動について

2018年6月から、子どもを抱える生活困窮世帯を対象に地域の諸団体（島根県労福協、J A 島根、生協しまね、松江保健生協、グリーンコープ島根、古志原公民館など）によるフードバンク活動を始めました。松江市古志原地区の協力を得て、給食がない夏休みに2回と12月にはお正月のお餅やクリスマスカードも添え、お米や食品を延べ84世帯に送りました。

また、2019年6月6日には、フードバンクしまね“あったか元気便”を諸団体、個人の参加で設立し、この取り組みをさらに広げていくことにしました。夏の86世帯、計2回に引き続き、冬は110世帯にお送りするため、12月20日、約100名のボランティアが集まり、食品の箱詰め作業と発送を行いました。松江地区労福協、全農島根県協議会、中国労金などの皆さんにはボランティアへ参加いただきありがとうございました。

今回は、春休みの3月17日（火）に食品の箱詰め作業を行う予定です。

ぜひこの取り組みへのご理解をいただき、下記活動への参加をお願いします。

- ・食品の梱包作業ボランティア
- ・個人・団体での協賛（一口千円から）

松江市近郊にお住まいで関心のある方は、島根県労福協（☎23-3302 担当、岡）へお電話ください。





中海少年野球団が島根県勢として2年連続優勝 第16回中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会決勝大会



今年で第16回を迎える中国ろうきん杯学童軟式野球選手権決勝大会が、11月16日(土)、17日(日)に広島市民球場(マツダスタジアム)とコカ・コーラボトラーズジャパン広島総合グラウンド野球場で、中国5県の予選を勝ち抜いた代表8チームにより開催されました。

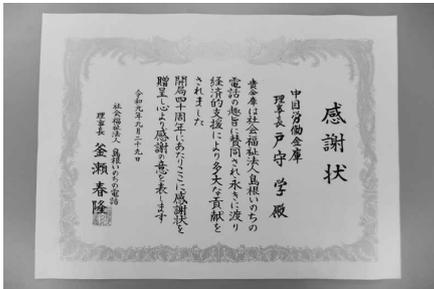
島根県からは松江地区の中海少年野球団と全掛屋ジュニアスポーツ少年団が出場し、中海少年野球団が島根県勢2年連続となる優勝を見事に勝ち取りました。

なお、9月28日(土)、29日(日)に安来市のあらえっさスタジアムで開催された県決勝大会には、この2チームのほか出雲地区の長浜野球スポーツ少年団・出東野球スポーツ少年団、邑智地区の邑智スパローズ、益田地区の吉田クラブ野球スポーツ少年団・七日市スポーツ少年団が出場しています。



中海少年野球団

島根いのちの電話から感謝状贈呈



島根いのちの電話は、昭和54(1979)年7月10日に電話を受信されて以降、今年で40周年を迎えられることになり、9月29日(日)に松江市総合福祉センターにおいて開局40周年記念公開講座が開催されました。この前段で長年ご寄付をいただいた18団体に感謝状が贈呈され、中国労働金庫にもその中の1団体として感謝状が贈呈されました。

中国ろうきんでは2012年4月から「労金を利用することで社会に貢献できる仕組み」に基づく寄付を行っており、こうした活動が今回評価されたものです。中国5県のいのちの電話へは利用者の皆さんの<ろうきん>ご利用に基づき7年間で総額約2,320万円の寄付が行われ、その運営に大いに役立てられています。

第35回「地SUN地SHOW祭り」に出店しました!



こくみん共済coop 島根推進本部は去る11月17日(日)に開催された「第35回連合島根 地SUN地SHOW祭り」へ、松江地区労福協労済部会として出店しました。

労金部会として出店されている中国労働金庫松江支店をはじめNPO団体、県内の労働組合および企業が集い、物販やゲームを通じて「地産地消」の促進や「食育」の推進への理解を深め、NPOの活動に興味を持っていただけるような趣向を凝らしたイベントになっており、4,000人を超えるお客様が来場されました。

労済部会エリアでは、バルーンアート・輪投げなどのゲームや保障相談コーナーを行い、保障の見直し・相談を組合員・生活者の皆さまへPRしました。

